

「ちょっと一息」

2020年6月24日

水中ウォーキング教室 大西 紀夫

一歩出ると、梅雨とはいえ快晴であった。スポーツクラブNAPから水中ウォーキングを終えて帰る途中のことである。気怠い疲れがある中で自転車を懸命に漕いでいたが快晴の空を見上げると西鳳翔山の山頂に白い雲がぽっかり浮かんでいた。疲れはあったが気分は良くて好情していたので、いろいろと頭の中が回転を始めた。そうだ「美空ひばり」の歌で花笠道中の歌詞の中に～ぽっかり浮かんだ白い雲～という言葉があったな。随分と昔の歌だが、自然は限りなく同じだなと思った次第。「美空ひばり」が出たので、私が好きだった石原裕次郎のことに触れてみたくなった。哀愁を帯びた歌の音色が好きだったのかも。昭和30年代に日活が出した裕次郎の映画も総て見たと思う。あの時代の新しい姿、形は眼を見張るものがあった。私は40数年のサラリーマン生活であったが、カラオケなどでは必ず「夜霧の慕情」を歌っていた。～君の幸せ、そればかり、夜霧に咽ぶよ…ああ男の慕情～この下りが好きだった。

ところで昔のことを回想すると年を取ったな～と言われる。しかし年を取ったのだから仕方がない。年を取っても澆漑と生きてゆけば良いのであって、頑固になってはいけない。年寄りには当然豊かな経験があり、うまく使えば役に立つ。まあ、人それぞれではあろうが、少なくとも邪魔者ではない。NAPの松本インストラクターに聞いた話であるが、山口県でも80才になってから水泳を始めて日本一になった女性もおられたらしい…とのこと。素晴らしい。

要は年を取っても何かをする挑戦の心意気が必要と思う。それぞれの立場で生き生き暮らす術を見つける事が肝要。

私は白血病を患い15年間家で静かに暮らしていたが、これでは足腰が駄目になると思い、一念発起で水中ウォーキングに挑戦を始めた。体調も気分もじわりじわりと良くなっている。家に帰り着いて西鳳翔山の山頂を眺めると白い雲は消えていた。まさに「美空ひばり」の花笠道中の歌詞3番にある～流れて消える白い雲のように～。ちょっと一息ついたかな。